

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>日々の申し送りやカンファレンスにおいて、職員に具体的に話している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の申し送りやカンファレンスにおいて、個々の入居者に合った介護で大切なことや根本的な考え方を常に話題にあげている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>玄関から入ったところに掲示している。また入居前に家族に説明をしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近くのスーパーに歩いて買い物に行く、地域の大掃除に参加して交流をしている。</p>	<p>○ 近隣の小学校へ運動会を見に行ったり、地域の夏祭りに参加する等、地域の行事に積極的に参加していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のゲートボール大会の見学に行き、参加者にグループホームの理解を求めたり、地域の溝掃除に参加し、積極的に話すように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在検討中であるが、家族会などで、認知症の介護教室を開いたりして貢献している。	○	現在検討中である。近隣のデイケアに地域の高齢者の方が来ているので、そこで交流し、認知症の理解を深めていくことができるように検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の外部評価での自己評価票を、すぐ目に付くところに張り出し、また、職員は必ず自己評価票に目を通すようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月に、運営推進会議にてサービスの提供状況や評価への取り組みを報告した。	○	今後は、家族や地域の要望を聞き入れ、また、さくらとしても地域の方々の協力を得られるように、運営推進会議を活用していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、市町村に相談に行く等、交流を図るように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、介護実践研修等に順次参加し、知識を深めるよう努力している。また、研修の結果を報告して、他の職員に周知をしている。相談があったときには、近隣の介護支援事業所に相談できる体制にある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	さくらの中で高齢者虐待防止法について資料を配り、勉強会を行った。また、朝のカンファレンス等で、声かけのしかたは適切か、対応はきちんとできているか等の入居者対応について、話し合いをしている。	○	今後もカンファレンス等で、さくらにおいて虐待はないか、職員間で継続的に話題に取りあげ、虐待の防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前に、必ずホームの見学をしていただき、十分に説明を行い、理解・納得してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置し、外部にも報告できるよう町役場と国民健康保険団体連合会の電話番号を、玄関前の分かりやすいところに表示している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急変時には電話連絡をして、また、月はじめにホーム便りにて近況報告している。金銭管理については、個人個人で出納帳を作成し、毎月確認、サインをいただくようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置し、外部にも報告できるよう町役場と国民健康保険団体連合会の電話番号を、玄関前の分かりやすいところに表示している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや、必要時には職員間で臨時にカンファレンスを開くようにして、職員の意見を聞けるように配慮している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族会において、午前中の職員が少なく感じることの指摘を受け、遅出の時間を変更する等、訴えや状況に応じて、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階の担当の職員は決まっているが、担当でなくても気軽に声をかけたり、行事をユニット共同で行う等して、さくら職員全員が馴染みの関係となっており、特に問題はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2か月に1回、法人内で有隣会全体会議があり、その中で随時研修を行っている。また、グループホーム協議会に入り、適宜研修に参加している。</p>	<p>○</p> <p>新人研修マニュアルを作成し、グループホームや認知症について、業務について理解を深め、実際の勤務に入る前に、研修を行う体制を取っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がグループホーム協議会などに参加し、他の事業所と意見の交換を行っている。また、町の主催する介護教室などに参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室があり、ゆっくりと休憩できるように配慮している。また、職員の意見等を聞く機会として、随時、小カンファレンスを開いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月に1回、運営者を交えてカンファレンスをする機会があり、状況などについて、随時意見の交換を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居する前に必ずホーム内を見学してもらい、また、管理者、計画作成担当者が必ず訪問し、さくらでの生活の意向を、家族、本人から聞き入れるように努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、必ずインテークを行い、意向を聞き入れている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学、インテークにて、また、場合によっては他の事業所のケアマネージャーとも連携し、さくら入居が本当にふさわしいかを見極めている。さらに、入居判定委員会を必ず開催し、他職種からの意見を聞き入れている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ずインテークしたり、見学をしてもらうことで、本人確認のうえ、入居してもらうように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者の悩みを聞いたり、表情を見ながら、表情が暗い時には居室におもむき、話しを傾聴するなど、寄り添いながら生活するように心がけている。また、お寿司の作り方などを職員が相談に行くなど、双方で支えあって生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節の行事に参加してもらう等して、馴染みの関係を築き、何かあればすぐに電話で相談する等、本人を共に支えていく関係にある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の希望に合わせ、連絡するようにしている。入居者が家族に連絡を取りたそうにしているときは、職員から声かけして連絡を取っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に合わせ、連絡するようにしている。入居者が連絡を取りたそうにしているときは、職員から声かけして連絡を取っている。また、外出の時などに、昔住んでいた近隣をドライブする等して配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が孤立しないように、一日に何回か集団体操やレクリエーションを取り入れ、閉じこもりや孤立を予防している。また、おやつや食事などは、なるべくホールで摂ってもらうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、時々、電話連絡をして、状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞が、毎日読みたい入居者には家族と相談の上、新聞を配達してもらおう等、入居者の生活に対する意向は柔軟に聞き入れ、対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の状況について、入居前にきちんと把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を使用して、利用者の現状をきちんと把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回、各ユニット合同のカンファレンスを行い、情報の交換を行っている。家族とは、面会時や月に1回、季節便りを渡す時などに現状の報告を行い、情報交換に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、実施できている。また、体調不良で状態が変わったとき等も、家族と話し合いの上、プランを変更したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を、生活記録に記入している。また、入居者個別対応マニュアルを作成し、職員全員が情報を把握できるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態で、分かりにくい医療的部分では、他の部署にも相談、協力を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶のボランティアに来てもらったり、小学校の運動会に招待される等、必要に応じて、協力しながら支援している。	○	今後、運営推進会議で協力を呼びかけ、よりよい支援ができるように努力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーに連絡したり、情報交換を行い、退居先については、安心した状況を提供できるようにしている。退居先には、添書やプランを情報提供している。また、理美容については、出張でさくらに訪問してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者、理事長が、町役場及び地域包括支援センターなどに連絡、相談して協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人、家族の希望も聞き、緊急時には、家族に連絡を入れて行っている。(連絡が後になる場合もある。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に心療内科があり、認知症のことで相談できる医師がいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、常勤にて看護師を配置しており、日々の健康管理を把握している。また、毎朝、溝渕クリニックから看護師が巡回に来て、健康管理している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関が隣接しているので、急変時にはすぐに受診、相談し、場合によっては、入院する等の適切な処置をしている。入院中も、家族や医療機関、主治医と連携して、情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関が隣接しているので、緊急時には対応を行う体制にある。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関が隣接している。また、それぞれの主治医とも連携し、重度化しても支援できる体制にある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護添書を必ず渡し、電話や直接会って、現状とさくらでの生活風景について説明を行っている。今後の退居者については、センター方式を活用し、情報交換できるように検討中である。	○	今後、センター方式を活用し、退居時に、他のケア関係者や家族に情報提供できるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳という理念のもとに、その人に合わせた対応や言葉かけをするようにしている。入浴は、一人ずつ行ったり、男性職員の入浴介助に抵抗のある方には、それなりに対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご飯の量や、おかずの量、調味料の嗜好など、できるだけ自分で決められるように、場面設定に努めている。茶話会の時には、さりげなく食べたいものを聞く等している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	浪曲が好きな入居者と一緒に浪曲を聞いたり、編物を教えてもらったり、地域の昔話を教えてもらう等、職員が入居者からもたくさんのことを学ぶ場面を作っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2か月に1度、美容師を頼み、希望を聞きながら行っている。髪染めは、本人希望で職員が手伝うこともある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を確認し、献立に取り入れている。買い物や皮むき、配膳などは、入居者の能力を把握し、能力に合った参加を働きかけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はたばこを吸う人はいないが、各自、必要があれば、居室に冷蔵庫を置き、自分の好きなものを好きな時間に食べられている。また、近隣のスーパーへ出かけ、好みのものを自由に買いに行けるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを利用して、排泄パターンを把握している。それに応じて、声かけや誘導をしている。下着・リハビリパンツ・紙おむつを夜間と昼間で使い分け、おむつの使用は必要最低限に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりのプライバシーを守りながら行い、また、その入居者に合わせた入浴方法を取っている。また、湯の温度や回数等の希望を聞いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に安眠剤を検討している。読書を勧めたり、声かけに配慮したり、活動量を増やしたり、メンタル的にも夜に向けて安定するように雰囲気作りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり何ができるかを把握し、家事参加をしてもらっている。楽しみについては、以前、趣味で行っていた、手芸や園芸などを生活の中に取り入れるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族と話し合い、必要な人は自己管理を支援している。また、自己管理できない利用者にも個別に出納帳を作成して、必要な時には職員の支援のもと、買い物ができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前よりは、散歩や買い物の機会を増やしている。時候の良い季節などは、組織内の車を利用し、外出の機会を増やしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中で、行きたい場所を聞いている。外出の際には、本人の住んでいた場所を通るなど、配慮している。また、希望によって、菖蒲園やしだれ桜を見に行ったり、お楽しみを適宜実施している。	○	以前に、家族会でレオマワールドへ遠足をしているが、今後も家族との遠足、外出を実現させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせ、連絡するようにしている。家族に連絡を取りたそうにしているときは、職員から声かけて、連絡を取っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会については、家族と相談の上、基本的には自由である。いつでも気軽に訪問してくれるように、呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について、入居者が受ける身体的・精神的弊害を理解するようにいつも話しあっており、拘束のないケアを目指している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊傾向のある入居者がいるので、鍵はかけている。そのことについては、入居家族に理解をしてもらっている。徘徊傾向のある方には、特に、監視されている圧迫感をもたせないような見守りをするよう心がけている。	○	原則として施錠はするが、一日のうちに少しでも開放する時間がとれるようにしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ステーションや台所から、ホール内の状況が把握できるようになっている。居室にいる場合は、時々、声かけに行き、様子をうかがっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家族や本人と相談し、居室で手芸を楽しむ人もおり、はさみや針などは、居室にできるだけ置けるようにしているが、カミソリは安全を第一に、遠慮してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の防災訓練を実施し、消火器の使い方も、職員全員講習するようにしている。また、法人の全体会議にていろいろな講習会を行い、事故防止に応じた知識を学べる場を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人の全体会議にて、緊急時の救命法などの講習会を、適宜開いている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるように、防災計画を作成している。	○	今後、地域の方にも協力を得られるように、運営推進会議などで協議していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒のリスクのある入居者には、家族に電話や面会時などで、順次状況を伝えるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝に必ず、入居者一人ひとりに声をかけ、健康チェックをしている。状態の変化は申し送りによって、見過ごすことがないように努めている。生活記録に、状況を記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し、薬について把握し、服薬を支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っており、状況に応じて、水分摂取を多めにしたり、入浴時に腹部マッサージをしている。毎日牛乳を飲んで、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、1日最低、朝と眠る前の2回、見守りや声かけにより行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については、記録している。組織内の管理栄養士の意見も参考にして、栄養のバランスには気を配っている。水分摂取量の少ない時には、職員が声かけして、十分な水分摂取できるように配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	組織内で感染委員会を開催しており、勉強内容をファイルし、職員がいつでも見られるようにしている。インフルエンザの予防注射は、入居者、職員全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し、徹底している。食材に関しては、事前にメニューを作成し、必要なものを購入できるようにしている。常に新鮮な食材が使用できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植える等、また、インターホンがすぐに分かるように張り紙をする等し、気軽に来訪できるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やまぶしさ等は、職員がある程度調節しながら、その都度確認したり、声のトーンにも配慮している。トイレ・浴室などは、分かりやすく表示しており、入居者によっては、それぞれ部屋の入り口に工夫した表示をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、気軽に休息できるスペースを配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具類は、基本的に自由であり、昔なじみの家具を持ってきている入居者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、一日に適宜行っている。各居室には、冷暖房が設置されており、個々の状態に合わせて、温度調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下には手すりを設置しており、台所は、入居者の安全性を考え、IHを設置している。外の物干しは、入居者の背丈を考えて、通常より低めに作っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を招くシミは、見つけ次第、掃除をしている。入居者の状況に合わせて混乱を招くものは、何らかの対策をとっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に花を植えたり、入居者が水遣りをする等、活動できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さくらのケア理念である「できることを見つけます。」「・・・らしい生活を見つけます。」「声を聴きます。」の三つを柱に、日々認知症ケアに取り組んでおります。入居者の中には高齢の方が多く、車椅子の方もおられますが、少しでも日常生活、家事参加してもらうように努力しています。月に一回は季節の行事や催し物をしたり、菖蒲園やドライブをしたりと、入居者にも大変好評です。また、溝渕クリニックと隣接しているので、急変時にはすぐに医師、看護師に相談、受診できる体制にあります。毎月家族の方には、季節便りを個別に発行し、身体状況、行事内容などを報告しております。